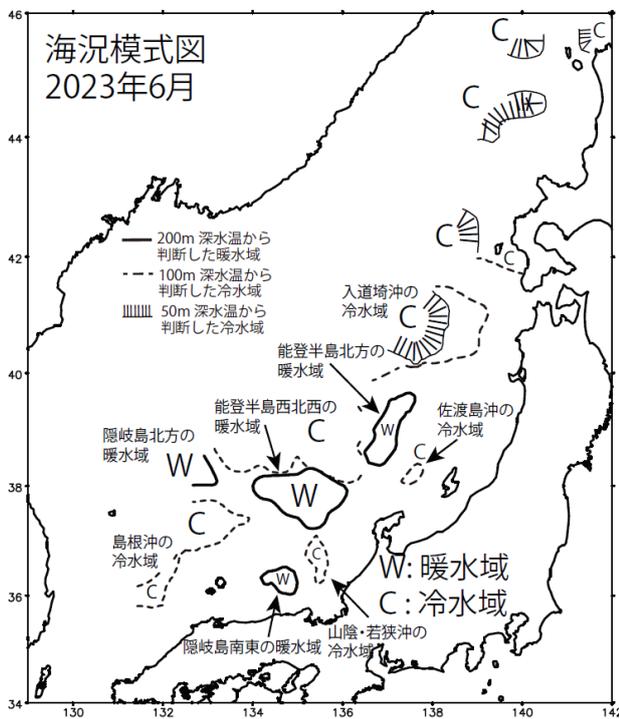




2023年度 第2回 日本海海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2023年7月中旬～9月)のポイント



- 隠岐島北方の暖水域と隠岐島南東の暖水域は東進し消滅する。能登半島西北西の暖水域は勢力を維持しながら定在する。能登半島北方の暖水域は勢力を維持しながら定在する。
- 島根沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平年並みで経過する。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平年並みで経過する。入道崎沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくはなはだ離岸で経過する。
- 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- 対馬暖流域の50m 深水温は、日本海西部及び北部ともに“やや高め”で経過する。

(註)用語の定義は以下のとおり。

“はなはだ”：出現確率約22年に1回、“かなり”：出現確率約7年に1回

“やや”：出現確率約3年に1回、“平年並み”：出現確率約2年に1回

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：企画調整部門（横浜） 上原

海洋環境部（新潟） 渡邊、阿部

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<https://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/>

2023年度 第2回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2023年7月中旬～9月）

- (1) 隠岐島北方の暖水域と隠岐島南東の暖水域は東進し消滅する。能登半島西北西の暖水域は勢力を維持しながら定在する。能登半島北方の暖水域は勢力を維持しながら定在する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、やや小さくやや離岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平年並みで経過する。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや小さく接岸距離は平年並みで経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくはなはだ離岸で経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部ともに“やや高め”で経過する。

2. 経過（(1)は2023年3月～6月、(2)～(3)は2023年3月～5月、(4)は2023年3月）

- (1) 3月に隠岐島北東に見られた暖水域は4月に停滞しつつ弱体化した後、5月に能登半島北西へ東進し、6月に南下して能登半島西北西に分布した。3月に隠岐島南東で見られた暖水域は4月に消滅した。3月に能登半島北西に見られた暖水域は4月に能登半島北方を経由しながら東進し、5月に北東に移動して秋田西方に分布した後に、6月に消滅した。3月に山形県沿岸～佐渡島北方に見られた暖水域は4月に消滅した。4月に能登半島北西に出現した暖水域は北東に移動し、5月に能登半島北方に分布した後、6月に南へ勢力を拡大しながら停滞した。
- (2) 島根沖の冷水域は、3月ははなはだ小さくやや離岸、4月はかなり小さく接岸距離は平年並み、5月ははなはだ小さくかなり離岸。山陰・若狭沖の冷水域は、3月はやや小さく接岸距離は平年並み、4月はかなり小さくはなはだ離岸、5月はやや小さくやや離岸。佐渡島沖の冷水域は、3月はやや小さく接岸距離は平年並み、4月はかなり小さくかなり離岸、5月はやや小さくやや離岸。入道埼沖の冷水域は、3月はやや小さくやや離岸、4・5月はかなり小さくはなはだ離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、3月は、山口北方、若狭湾北方、富山湾、佐渡島沿岸～北方で“かなり高め”～“はなはだ高め”それ以外は“平年並み”～“やや高め”。4月は、山口北方で“平年並み”、鳥取北方～丹後半島北方、佐渡北西で“やや高め”以外は“かなり高め”～“はなはだ高め”。5月は、山口西岸、丹後半島周辺、越前岬周辺、能登半島北西、上越沿岸で“やや低め”、山口北方～隠岐諸島北西、隠岐諸島周辺、能登半島北方、佐渡海峡、山形～秋田の沿岸～西方、津軽半島西方で“やや高め”～“かなり高め”以外は“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部・北部ともに“やや高め”。

3. 現況（2023年6月）

- (1) 暖水域は、隠岐島北方、隠岐島南東、能登半島西北西、能登半島北方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、かなり小さくやや離岸。山陰・若狭沖の冷水域は、かなり小さく接岸距離は平年並み。佐渡沖の冷水域は、やや小さく接岸距離は平年並み。入道埼沖の冷水域は、かなり小さくはなはだ離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、佐渡島西方、秋田沿岸で“やや低め”、隠岐諸島北方、鳥取沖、若狭湾沿岸、富山沿岸、津軽海峡はるか西方、積丹半島西方、利尻島西方、北海道北部沿岸で“やや高め”、佐渡島北西、山形沿岸で“かなり高め”、それ以外は“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部・北部ともに“かなり高め”。

(註) 引用符（“ ”）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| “はなはだ高め（低め）” | : 22年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ（低さ） |
| “かなり高め（低め）” | : 7年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ（低さ） |
| “やや高め（低め）” | : 3年に1回の出現確率である1℃程度の高さ（低さ） |
| “平年並み” | : 2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産研究所	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
	(取りまとめ機関)
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所 新潟庁舎